

令和7年度 第6回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和8年3月17日(火) 午後2時から4時00分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 委員:落合会長、伊藤副会長、神子委員、栗林委員、阿部委員、石井委員、平向委員、堀内委員、渡辺委員、内田委員、三田地委員、宮原委員 計12名
事務局:松本中央図書館長、吉崎(中央図書館長補佐兼庶務担当係長)、大竹(小川西町図書館長)、菅家(中央図書館サービス担当係長)、田中(中央図書館資料担当係長)、坂本(津田図書館長) 計5名
その他:横山課長(地域コミュニティ担当課長)、下田係長(市民協働・男女参画推進課コミュニティ担当係長)
指定管理受託事業者(シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社):大胡田所長、知野見マネージャー、矢野氏
- 4 傍 聴 なし
- 5 配付資料
- ・小平市小川駅西口複合施設開設スケジュールについて (資料No.1)
 - ・図書館行事等の報告と今後の予定について (資料No.2)
 - ・令和8年度小平市立図書館事業計画(案) (資料No.3)
 - ・令和8年度小平市図書館協議会日程(案) (資料No.4)

6 議事

(1) 報告事項

①小川駅西口複合施設開設スケジュール等について(資料No.1)

報告事項①についての意見・質疑応答

委員:杉並区の事例で市民の声を聴きながら運営しているということだが、今までの図書館と違って、指定管理者が入って市と違う取り組みができたという効果、こういう工夫をしたら来館者数が増えたなどがあれば教えてほしい。

事業者:現在勤めている図書館では、語りやボランティアを協働で行うおはなし会を大切にしている市であった。委託になる際に、市民の方々からたくさんのご意見をいただいたが、私たち自身も語りやおはなし会をすることによって、施設見学の人数が増え、低下していた貸出冊数も伸びた。小川西町図書館でも、皆さんの意見を聴きながら、協働して良い図書館づくりをしていきたい。

委員:小平市こども文庫協議会に所属しているが、図書館のおはなし会を図書館職員の人と一緒に

- に行っている。私たちがこういう思いでやっているということを事前にお話しさせていただく機会が欲しい。
- 事業者：皆さんの思いは、小川西町図書館の職員から詳しく説明を聞いている。語りを大事にしている、人の声を大事にして図書館づくりを熱心にやっている地域だと思う。ぜひお話をお伺いしたいと考えている。
- 委員：市民の声は、具体的にどうやって聞くのか。ワークショップをやるのか、アンケートを取るのか、窓口で聴くのか、どのような形でやるのか。
- 事業者：定期的な会を設けてご意見を聴く場があればと考えている。
- 会長：小川西町図書館は、小平市においては障がい者支援を特色としてきた図書館であった。今後はどのように運営していくのか。
- 事務局：障がい者の関係については、指定管理者ではなく、担当館を変えて図書館で実施する。どちらの館で実施するかは調整中である。今後も市全体の中で施策を進めていく。
- 委員：小川西町図書館が障がい者担当の館になっているのは、近くに特別支援学校や障害者職業能力開発校があるためと思われる。様々な団体や学校の保護者の方が要望を出すなど関わりが深い館となっている。今度は担当が変わるが、その辺りの引継ぎを充分にさせていただきたい。また、関係者が来館された際は、うまく施策につなげていただきたい。
- 会長：指定管理者がこの近辺の図書館と関わっているところはあるか。
- 事業者：令和8年4月から東久留米市4館の指定管理を行う。23区内では、高井戸区民センター、板橋区の3館、江東区に関わっている。
- 委員：小平市のどこに魅力を感じて応募したのか。
- 事業者：新設で図書やカフェ、男女協働などの複合的な施設というところに魅力を感じている。他の施設でも実績があるので、そのノウハウを生かせるのではないかと思う。
- 委員：小平の東側になかまちテラスという図書館と公民館の複合施設があり、おまつりに行くと中学生と一緒に販売などをして地域を盛り上げている。小川パレットが西側のそういう施設になってほしいと思っている。今の図書館は、なかなか中学生が訪れないので、小中学生を巻き込みながら西側を盛り上げてほしい。他の場所で学校と連携しているようなところはあるか。
- 事業者：杉並区では、小中学校に声掛けをして、イベントの際にボランティアスタッフとして参加してもらっている。小平市でも取り入れることができるのではないかと考えている。
- 会長：小川パレットには何名ぐらい派遣する計画なのか。
- 事業者：60名前後を予定している。
- 会長：図書館部分の人材は何名ぐらい確保しているのか。
- 事業者：図書館は専属で考えているが、他の業務も出来るようならば役割分担を考えている。
- 会長：図書館には全員司書を配置するのか。それ以外の方も入るのか。
- 事業者：業務仕様書に基づいて配置する。
- 会長：司書の資格を有しているのはどのくらいの割合となるのか。
- 事務局：業務仕様書は4割としている。
- 委員：ワークスペースのインターネット接続速度は速い方がよい。

事業者：意見として伺う。

委員：仲町のティーンズ委員会のようなものがあると面白い。

会長：なかもちテラスに中高生を呼ぶのに校長先生のご尽力が大きかった。小川パレットでは近くの二中や、東村山の私学が多く、職業訓練校もある。そういうところの連携を図ってもらいたい。

事務局：小川パレットを盛り上げるため、令和6年度は、&プロジェクトという有志のグループに東村山の私学の生徒会に参加してもらい、仮囲いに絵を飾ることをした。二中の美術部にも協力してもらい、季節に合わせた絵に張り替えてもらっている。令和7年度は、愛称の募集を盛り上げるということで、愛称やロゴマークが決まった時の表彰式で、&プロジェクトとの連携や日体大桜華の生徒が司会をするなど、イベントを盛り上げている。これまで周辺の学校と連携をしながら進んできており、その流れを途切れないようにしていく。

会長：図書館だけではなく、市として取り組んでいたということですね。

引越越し作業は指定管理者に手伝ってもらおうのか。

事務局：指定管理者としては8月からになるが、4月から準備業務委託ということで滞りなく進めていける体制を考えている。

会長：小川西町図書館には、手で触る資料が多くあるので、移動の際、通常の資料と違って大事に扱って欲しい。

(地域コミュニティ担当、指定管理受託事業者退出)

②図書館運営状況について（資料No.2）

③市議会3月定例会について

報告事項②、③についての意見・質疑応答

委員：2月28日に上水中の生徒によるポップ展示があったが、上水中のおすすめの50冊の話を含めて、詳細を校長先生に説明してほしい。

委員：本校では授業でポップを作成し、それを校内に展示をしていた。小平市では各中学校区で生徒会役員と児童会役員が集まって、学区ごとに目標を作って活動をしている。上水中校区は、つながる街というキャッチフレーズを作って取り組みをしている中で、図書館とのつながりで、本の紹介ポスターやポップを展示してもらった。市立図書館に自分たちの作品を展示してもらうということは、図書館と距離が近くなり、図書館を利用することも増えるだろうと考えた。将来的には、そういう子たちが市民になれば、なお良いと考えて取り組みを始めた。喜平図書館長とも継続的にやっていけたらいいと話をしている。お時間あれば、ぜひご覧いただきたい。また、上水中の50冊だが、夏休み中に私と国語の教員、学校司書、喜平図書館の職員と相談をして、中学生に読ませたい本を考え、リストにして全校生徒に配った。10冊ごとに読了者を表彰している。読んだ冊数に応じて、しおり、ステッカー、メモパッド、クリアファイル、レザーのブックカバーを渡している。また、生徒が持っているクロームブック内にサイトがあり、それぞれの本の紹介と感想が入力できるようになってい

る。たくさん本を読んでほしいということが狙いである。他にも本の紹介が書いてあるしおりを展示したり、配ったりしている。学校全体が読書に注力しているという雰囲気を作りたい。

委員：小平市子ども文庫連絡協議会で、昼休みの時間に学校図書館を見学したが、生徒たちも多く、50冊の展示なども行われていて、学校側の読書にいざなう感じがとても良かった。

会長：学校ごとに取り組み方が全然違う。学校内で協力してくださる先生方が多くいて、校長も率先して取り組んでいただいている。これが他校でできるかということ、校長の姿勢なのではないか。どうやったら、校長が読書は大事だということに目を向けてくれるか話をしていきたい。

委員：こういう取り組みを他校の校長が羨ましがってくると変わってくると思う。

委員：予算について、1億円以上増えるということだったが、これは図書購入費の上振れ分も入っているのか。

事務局：図書費については前年度実績と同じ額であり、傾向としては微減である。額として変わっていないが、本の単価が3年前と比べて、1.5倍～1.8倍となっている。予算が同じだと冊数部分では難しくなる。大きなところは、西部市民センターの解体工事が3億円以上かかる。

委員：年度末になって、図書の購入費は使い切れているのか。

事務局：ほぼ使い切っている状況である。

事務局：全体の図書購入費とは別に小川西町の移転に関して、図書購入費を約1,900万円計上している。

会長：なかまちテラスを立ちあげる時も、新しい本を導入するということで図書費が増額された。

事務局：収容可能な蔵書数の関係でかなり減らして移転する。12万冊のうち6万冊を移転して、1万冊を新規購入し、7万冊で始める。

会長：大事な本は減らさないでほしい。

事務局：残すべき本はしっかり残す。

委員：指定管理者が選書するものはあるのか。

事務局：指定管理料の中に資料代を含んでいる。選書会議の中に指定管理者も一緒に入って選書してもらい、当市の選書基準からは外れない形で購入してもらう。

会長：その分だけ全体の図書費は増えているということか。

事務局：小川西町分として計上されるべき図書費を指定管理料に計上している。

会長：本の値上がりがすごい。

事務局：電子図書の方も上がっている。購入の際、貴重な本も入れなければいけないが、動きのいい本とのバランスが重要になってきている。

会長：紙の書籍と電子書籍を買う図書費は分けてほしい。電子書籍を買うからこちらを減らすということは困ると言ってきたので、今のところ、その通りに動いてくれているようだ。これだけの行事を皆さんでこなしていることは、大変なことだと思う。引き続きよろしく願います。

(2) 協議事項

①令和8年度小平市立図書館事業計画（案）について（資料No.3）

②令和8年度小平市図書館協議会日程（案）について（資料No.4）

協議事項についての意見・質疑応答

委員：事業計画、学校図書館支援の充実について、蔵書の充実とあるが、予算自体は学務課が関わっているが、図書館はどうやって蔵書に関わるのか。学校図書館の書架や机などの什器類はそれぞれの学校の予算で買えず、買い替えたくてもできない。全学校の状況が一緒でないといけないと学務課から言われている。そういったところに食い込んでほしい。

事務局：その通り学務課で備品を揃えている。図書館と学務課の所管の範囲が違うため、ご不便をおかけしている。図書館で記載している学校図書館の充実というのは、図書館で学校司書を任用しており、その研修などで選書の情報提供をしているので、蔵書の充実に寄与できていると考えている。学校側の意見とすり合わせをしながら、充実を図っていききたい。

会長：以前からの課題であるが、縦割りの行政を横のつながりで充実してほしいとの気持ちを図書館協議会は持っている。備品は学務課の予算であることは重々承知しているが、何か応援できないかと考えている。図書館、学校、学務課のそれぞれの考え方はわかるが、意見を言えるような縦と横の関係を作ってほしい。

委員：納得できる理由があればいいが、図書館環境の充実を図りたいのに、校内で配当されている予算でやろうとしているのことに対し、それはできないと言われるのは納得できない。

会長：校長に委ねる部分はあっている。

委員：全校長がやりたいと言えればいいのか。

委員：多分、全員は言ってくれない。

事務局：どこの学校も公共施設も古くなっており、予算制約があり、全部は直せない。校長も委任されている部分とそうでない部分があり苦勞されていると思う。何かあれば相談に乗りたい。

会長：予算はそれぞれ枠組みが決まっている。うまく調整して何を充実させるか。

委員：そこは各校長の腕の見せ所であり、個性である。

会長：学校ごとに違いが出てもいいのかなと思う。

委員：事業計画について、昨年度の形がこうで、その結果、今年度はこういう計画方針になったという形になっているとわかりやすい。

会長：事業計画があって、その結果がこうだったという対比表を示してもらった後、報告書を作成してもらおうとありがたい。

事務局：毎年、事業概要と事業統計を発行している。

委員：令和7年度事業計画が実施されて、それに対する効果の報告があり、その結果を踏まえての令和8年度計画を示してほしい。

事務局：まだ令和7年度は終わっておらず、5月末の出納閉鎖期間を経て、10月の決算に向けて資料を作成していくのが通常の流れである。予算執行を含め、全ての事業が完了してから

まとめとなるので、このタイミングでのまとめることは難しい。

委員：昨年度はこうやったが、今年度はここに力を入れたい、昨年度は不十分だったので、今年度はこの形で盛り込んだいうような補足説明を聞きたい。

事務局：予算が絡むところは難しいが、トピックス的な所は出せるのではないかと担当とも相談して検討する。

委員：昨年度の計画と比較をしたい。

委員：昨年度の差がわかればいい。

事務局：検討させてほしい。

会長：これまであまり対比はしていない、検討をお願いする。

委員：小平市は学校や子どもたちと図書館の連携が多いが、現役で働いている世代向けのものが少ないがどうか。また、レファレンスサービスについて、オンラインデータベースの提供とあるが、これは職員が作成しているのか。

事務局：1点目の現役世代への対応について、最近の大きなものとしては、電子図書館がある。他市では電子図書に児童向けのものが多いが、小平市では、現役世代に向けて実用書や辞典、ブックオーディオなどを充実させており、選書についても現役世代が楽しめるようにしている。加えて、ビジネスマン向けとしては、世界各国の雑誌や新聞を電子図書で見ることができる。今後の課題としては、現在は利用カードを作成する場合は来館が必要だが、電子申請ができることなどのDX化を進めていくことが全庁的な課題としてある。

事務局：2点目のオンラインデータベースについて、中央図書館で、朝日新聞クロスサーチ、官報情報検索サービス、読売新聞ヨミダス、日経テレコン21、法令検索サービスのウエストロー・ジャパンを、仲町図書館では、朝日新聞クロスサーチ、官報情報検索サービス、読売新聞ヨミダスを提供している。

事務局：これらの商用データサービスもビジネスマン向けとしている。

委員：オンラインレファレンスサービスというのは、色々な図書館がこういう相談があったら、こういう資料を見るといいというような実際の事例をデータベースとしてアップされているもので、図書館に聞かなくても利用者が自分で事例を見れるものとなっている。そこに協力しているものではないのか。

事務局：そういうものではなく、民間の商用データベースを契約して利用者に提供しているものである。図書館でもAIチャットを使ったオンラインサービスの先進事例の研究を進めなければならないと考える。

委員：これは生成AIのチャットとは違って、あくまでレファレンスのオンラインサービスである。図書館員がこういう事例があったとデータベース化していて、図書館利用者がそれを参考にして資料を探すものである。そういうものに参加してみるのも面白いのではないかと。レファレンス経験があまり無い人でもそれを使って相談に乗れると思う。

会長：そのアドレスを事務局にも共有してほしい。

委員：共有する。

会長：事業計画の中に、子どもだけではなく、大人へのサポートもしているということを入れてもらえるといい。今後は図書館に直接来なくても利用カードの発行を検討することやレフ

ァレンス事例の紹介をすることなどの一文が入るとうれしい。

事務局：費用がかかることは難しいが、文言が追加できるか内部で検討したい。

(3) その他

特になし

(次回、令和8年5月14日(木)午後2時から開催予定)